



学校だより 西北歳時記

長崎市立西北小学校 校長 立本 祐輔

NO. 4 令和3年9月2日 発行



「そろえる」「そだてる」「ととのえる」

2学期が始まりました。新型コロナウイルス第5波の収束が見通せない中、様々な制約がありますが、可能な限りの教育活動を展開していきたいと思えます。保護者の皆様の、引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

さて、2学期の学校経営方針のキーワードを「そろえる」「そだてる」「ととのえる」としました。それぞれの言葉に込めた、私の思いを述べたいと思えます。

そろえる

- ① 学力向上プランに沿った全校挙げての指導と取組で、子どもの学力の向上に努めます。
- ② 新型コロナウイルス感染予防策や熱中症防止のため、全校挙げた取組を行います。
- ③ 廊下歩行やスリッパならべなどを徹底するために、指導すべき内容と指導する側の姿勢をそろえて取り組みます。

そだてる

- ① 主体的・対話的で深い学びのための、学習意欲と学び方を育てます。
- ② 集団の中での所属感と自尊感情を高めるとともに、他者に対して思いを巡らせることのできる想像力を育てます。
- ③ 校内研修を通して、私たち教職員のスキルアップに取り組みます。

ととのえる

- ① 教室の学習環境を整えるとともに、教師の話し方や授業での発表の仕方を通して、主語と述語を意識した話し方を身に付けさせていきます。
- ② 休み時間や下校時の安全確保のため、教室を出る際の子どもの高揚した気持ちを整え、落ち着いて行動できるようにします。
- ③ 私たちの職場環境を整え、働き方改革に取り組みます。

～生理用品の取扱いについて～

学校では、これまで児童が急に月経が始まった場合や生理用品を忘れた場合などの不測の事態の際には、生理用品を提供または貸与してまいりました。

今回、さらに、市全体の取組として経済的な理由から生理用品が購入できない「生理の貧困」に関連して、児童から要望があった場合についても保健室で生理用品を提供することといたします。

学校では生理用品について、基本的に自分で準備をして学校に持参することがマナーであると指導していますが、今回の取扱いの趣旨も含み、気兼ねなく相談するようお願いください。

昨日、オンラインで始業式を行いました。そこで話した内容を紹介します。



全校のみなさん、おはようございます。

長い夏休みが終わりましたが、今日から、気持ちを切り替えて2学期の勉強や運動に取り組んでいきましょう。

ところで、2学期は一年の中で一番長い学期です。陸上競技のトラックにたとえると、第2コーナーから第4コーナーまであります。この長い2学期を充実したものにするか、しないかは、みなさん一人一人の心構え次第です。ここで、イソップの童話を紹介します。

夏の日差しが、かんかん照りつける道を、3匹のありたちが、食べ物を背負って歩いていました。すると、木の下でバイオリンを弾いていたきりぎりすが声をかけました。

「こんな暑い日に、何をしているんだい。」

「冬にそなえて、食べ物を家に、運んでいるんですよ。」

ありは答えると、忙しそうに、通り過ぎて行きました。

「この暑い日に、一生懸命働くなんて、ばかなやつだなあ。」

きりぎりすは、ありたちをばかにして、笑いながら見送りました。

きりぎりすは、毎日、仲間の虫たちと音楽会を開いて、楽器を弾いたり、踊ったり…。そんなことをしながら、夏の間中、遊び暮らしていました。



やがて、夏が終わり、秋がやってきましたが、きりぎりすはあいかわらず、働こうとしませんでした。野原の草が枯れ、木の葉が散ってしまうと、北風と一緒に、冬が、駆け足でやってきました。

「寒い。」

きりぎりすは、枯れ草のかげで、震えていました。寒くて、歌をうたう元気なんかありません。

きりぎりすはお腹もすいていましたが、食べるものなど、どこにもありません。

「そうだ。ありさんに頼んでみよう。」

きりぎりすは、ありが、夏の間中、せっせと食べ物を家に運んでいたことを、思い出し、さっそく、ありの家を訪ねて行きました。

「ありさん、お願いがあるんだけど。」

「どんなことでしょう。」

「すこしでいいたら、何か、食べ物を分けてもらえませんか。」

きりぎりすは恥ずかしそうに言いました。

みなさんは、きりぎりすのことをどう思いましたか？

ありたちは、きりぎりすに何と答えたと思いますか？

2学期が終わるころには、冬がやってきます。そのとき、ありになっているか、きりぎりすになっているかは、今日からのみなさんの心構えで決まります。しっかりと頑張っていきましょう。